

## 1 中期学校経営方針

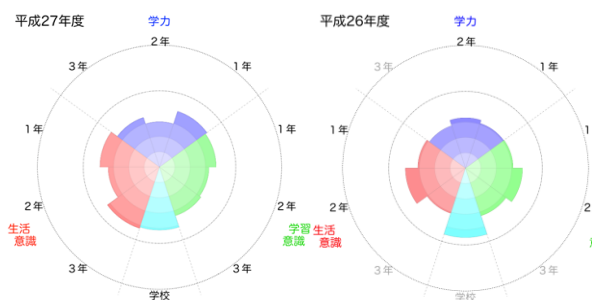
### (1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
<p>○「チーム上中」として、全職員で安心安全な楽しい学校づくりを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本の定着のため、授業の工夫改善を図り、「わかる授業」の実践と、個に応じた指導の充実に努めます。</li> <li>・自尊感情の高揚とアイデンティティの確立のため、多文化共生の精神を柱とした人権教育と生徒主体の活動を推進します。</li> <li>・地域社会の一員であることを自覚し、様々な行事や活動に積極的に取り組み、社会に貢献できる心を育みます。</li> <li>・学習意欲や向上心の育成と、学校生活の安心安全のため、丁寧な生徒理解ときめ細かな生徒指導の充実に努めます。</li> </ul>	

### (2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
<p><b>確かな学力 (学習指導)</b></p> <p>担当 学習研究部</p>	<p>授業の工夫改善を図り、「わかる授業」の実践に努める。「個に応じた指導」を充実させ、支援体制を整える。</p>	<p>①年3回のブロック内授業交流会等を充実させ、授業の工夫改善に努める。</p> <p>②国際教室や特別支援の取り出し授業に多くの教員と通訳や学習支援ボランティアがかかわる。</p> <p>③英語科や理科を中心に少人数・TT指導を取り入れ、「個に応じた指導」の充実を図る。</p>

## 2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



### (1) 学力の概要と要因の分析

○教科学力が極めて低く、基礎的・基本的な知識技能の定着に大きな課題が見られる。学習言語として日本語力の不足が要因の一つと考えられる。

○授業を工夫し、向上心や意欲を引き出そうとしているが、取組が成果としてあらわれにくいいため、生徒の学習に対する自信や自尊感情は低く、あきらめてしまう生徒や努力が持続しない生徒が多くみられる。

○学習保障や学力向上に向けて、より手厚い特別支援による個別学習や国際教室での日本語学習の充実が必要である。

### (2) 学校の状況・地域の実態

- 外国籍ならびに外国につながる生徒が約3割在籍し、関係する国も12か国に及ぶ。それらの生徒の中で、学習言語としての日本語指導を必要とする生徒が多数いる。
- 国籍にかかわらず、学習につまずきのある生徒や発達障害と思われる生徒が比較的多く在籍しており、学習等に対する集中力に欠ける場面がよく見られる。
- 地域の方々や保護者は、学校の取組に対し協力的であり、理解がある。しかし、約3割の保護者は日本語の正確な理解が難しく、通訳者の支援が必要な保護者も少なくない。

### (3) 今後の課題

今後の最優先課題として、次の3つがあげられる。

- ア 生徒一人ひとりが意欲的かつ落ち着いて学習に取り組めることを目的とした、個々に応じた丁寧できめ細かな生徒理解と生徒指導の継続。
- イ 生徒一人ひとりの自尊感情の高揚とアイデンティティの確立を目指し、多文化共生を柱とした人権教育および生徒の主体的な教育活動の実践と充実。
- ウ 生徒の学習意欲を喚起し、基礎的・基本的な知識技能の定着につながる「わかりやすい授業」の実践と、自ら継続的に学習に取り組めるようにするための指導方法や評価方法の研究。

### 3 平成 28 年度 学力向上の重点目標と具体的取組

#### (1) 学力向上の重点目標

- ア 生徒の学習へのつまずきを的確に把握するため、本校生徒の学習状況を様々な資料や情報より分析し、生徒の特質に応じた学習支援法を開発し継続する。
- イ 生徒自らが意欲的に学習に取り組み、課題を解決していこうとする向上心の育成を目指し、言語（母語）支援カリキュラムの開発・実践を継続して推進する。
- ウ 授業における日常的な生徒理解や生徒指導を充実させ、意欲的かつ落ち着いて学習に取り組める学習環境を維持し、市学力・学習状況調査における標準化得点を高める。
- エ 各教科においてわかりやすい授業の実践と特別支援による個別学習と国際教室での日本語学習をより充実させ、基礎的・基本的な知識技能の定着を図る。
- オ 生徒一人ひとりの自尊感情の高揚とアイデンティティの確立を目指し、多文化共生を柱とした人権教育および生徒の主体的な教育活動の実践と充実に努める。
- カ 3学期制の特質を生かし、生徒一人ひとりの学習への向上心を喚起するため、定期的に学習評価を示す。生徒によってベトナム語版、中国語版で学習評価を作成する。また、学習意欲の継続を図るため、定期テストを年5回実施したり、国数英の教科で小テストを定期的に実施したりする。

#### (2) 具体的取組

##### ①「つまずきへの気づき」のために

- ア 各教科とも定期テストの振返りを丁寧に行い、誤答を分析することでつまずきのはじまりを見つける（見つけさせる）。
- イ 一斉漢字テスト、計算テスト、英単語テストや継続的な小テストの実施により、基礎・基本の定着を確認し、生徒個々につまずきを気付かせる。
- ウ 教育相談を通して、学習に関する悩みや不安を聞き出し、つまずいている部分を気付かせ、具体的な改善策を示唆する。

##### ②「意欲の育成」のために

- ア 進路指導を計画的に行い、卒業後の具体的な目標を持たせ、学習意欲を喚起する。
- イ 進路指導により、入試制度を理解させ、不安を解消するとともに、具体的な努力目標を持たせる。
- ウ 特別支援学習による取出し授業、国際教室による日本語指導、放課後の学習支援等により、学習意欲の向上や継続を図る。

##### ③「学習指導の充実・改善」のために

- ア 特別支援（取出し授業）により、基礎・基本の定着が必要な生徒への学習支援をより充実させ、継続する。
- イ 国際教室での個々の状況に応じた日本語指導により日本語力を伸長させ、学習の理解を向上させる。
- ウ 定期試験前の学習支援や放課後の個に応じた学習支援の継続により、学習へ取り組む姿勢を身につけさせ、学習意欲の向上を図る。